

平成 28 年度 一般入学試験問題（Ⅱ期 A 日程）

# 国 語

## 注意事項

1. 解答用紙には解答欄以外に次の記入欄があるので、監督者の指示に従って、それぞれ正しく記入し、マークしなさい。
  - ①氏名欄  
氏名・フリガナを記入しなさい。
  - ②空欄  
「年月日欄」の右横の空欄に「国語」と記入しなさい。
  - ③番号欄  
受験番号を左詰めで記入し、さらにその下のマーク欄にマークしなさい。
2. この冊子は、問題が 20 ページあります。
3. 試験中に印刷の不鮮明、落丁・乱丁あるいは解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に申し出てください。
4. 受験番号が正しくマークされていない場合、採点できないことがあります。
5. 解答は、解答用紙の解答欄にマークしなさい。たとえば、

10
----

と表示のある問いに対して 3 と解答する場合は、(例) のようにマークしなさい。

(例)

解答番号	解答記入欄
10	① ② ● ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩

6. 問題冊子の余白等は適宜利用してよいが、どのページも切り離してはいけません。
7. 試験終了後、問題冊子は持ち帰ってください。

① 次の問に答えなさい。

問一 次の言葉の類義語をそれぞれ1から3の中から選びなさい。解答番号は、①は 、②は

③は 、④は

- |   |    |   |    |   |    |   |    |
|---|----|---|----|---|----|---|----|
| ① | 懸念 | 1 | 心配 | 2 | 疑惑 | 3 | 回避 |
| ② | 魂胆 | 1 | 困惑 | 2 | 意図 | 3 | 闘魂 |
| ③ | 辛抱 | 1 | 辛辣 | 2 | 忍耐 | 3 | 樂觀 |
| ④ | 検討 | 1 | 検索 | 2 | 検診 | 3 | 吟味 |

問二 次の言葉の対義語をそれぞれ1から3の中から選びなさい。解答番号は、①は 、②は

③は 、④は

- |   |    |   |    |   |    |   |    |
|---|----|---|----|---|----|---|----|
| ① | 下落 | 1 | 騰貴 | 2 | 騰落 | 3 | 臆本 |
| ② | 回収 | 1 | 放出 | 2 | 頒布 | 3 | 販売 |
| ③ | 冷静 | 1 | 熱烈 | 2 | 混乱 | 3 | 波乱 |
| ④ | 干渉 | 1 | 交渉 | 2 | 限界 | 3 | 放任 |

問三 次の語の空欄に、それぞれ1から3の中から漢字を選んで補い、四字熟語を完成させなさい。解答番号は、

①は 、②は 、③は 、④は

- |   |      |   |   |   |   |   |   |
|---|------|---|---|---|---|---|---|
| ① | 信賞必□ | 1 | 滅 | 2 | 罪 | 3 | 罰 |
| ② | 夫唱婦□ | 1 | 隋 | 2 | 隨 | 3 | 髓 |
| ③ | 盛者必□ | 1 | 衰 | 2 | 弱 | 3 | 死 |
| ④ | 三寒□温 | 1 | 三 | 2 | 四 | 3 | 五 |

問四 次の空欄に、それぞれ1から3の中から語を選んで補い、文を完成させなさい。解答番号は、①は 、②

は 、③は 、④は

- ① 台風の影響で川が□□する。
- |   |    |   |    |   |    |
|---|----|---|----|---|----|
| 1 | 氾濫 | 2 | 反乱 | 3 | 叛乱 |
|---|----|---|----|---|----|
- ② 検査結果を□□する。
- |   |    |   |    |   |    |
|---|----|---|----|---|----|
| 1 | 紹介 | 2 | 照会 | 3 | 商会 |
|---|----|---|----|---|----|
- ③ □□式の棚はとても便利だ。
- |   |    |   |    |   |    |
|---|----|---|----|---|----|
| 1 | 稼働 | 2 | 可動 | 3 | 架道 |
|---|----|---|----|---|----|
- ④ その葉は□□性がある。
- |   |    |   |    |   |    |
|---|----|---|----|---|----|
| 1 | 速攻 | 2 | 側溝 | 3 | 即効 |
|---|----|---|----|---|----|

二 次の文章を読んで、あとの問に答えなさい。

産業の発展といえば漠として 雲をつかむようだが、工業が発達したといえればだれにも分る。大は西洋煉瓦づくりの官営から小は、しもたやを改造した町工場にいたるまで、器械や器具を据えつけて工場と呼ぶ建物が目についてふえてゆくからである。それと同時に新しい職場がひらけた。一つの工場ができればかならず募集の広告が出て、近在の人々に呼びかけた。勤めは官員と相場のきまっていた時代に、商店の住込みとちがつて手弁当持ちで通う人が年一年と増加する。これがちの労働者、当時の職工で、朝まだ暗いうちに一定方向に歩く群を見るようになったのも明治の新しい風景の一つであった。彼等は勤め先を工場と称せず会社と呼ぶ。ちようど製糸工女が「会社にゆく」と言うように。つまり労働の性格を問わず、会社は新時代の新鮮なイメージをあらわすもので、そこに勤めるのも従来になかった生活の意味をふくんでいる。

工場労働に必要なものは安くて大量の労働力である。そして明治の社会はその出発点から貧富の両極を生み出し、富めるものはますます富む一方で貧しいものはますます貧困に陥りつつあったから、この種の労働力の供給には事欠かなかった。だが資本の原理は冷酷で徹底している。安い労働力のなかでも低廉で従順な労働力をもとめる。それが女のはたらきである。無。シヨウ労働を基盤にして内職や出稼ぎにわずかの低賃金をみとめられていた女のエネルギーは、女であるために男の職業の世界からシャットアウトされていたのであるが、いまや時代は変わった。資本はこれまでの古い **A** や倫理を無視しても、温存されている **ほうだい** な魅力のある能力を利用せずにはいられない。在来の通念からいえば女の工場通いなどおそ女らしくない筈のものであるのに——そしてこの感覚はずっと後まで生きつづけ、一部有職者の間に女工の情 **b** ソウ教育が熱心に説かれるようになるのだが——支配階級自身のつくりだした女の本分や女らしさの教育に反しても **c** 意に介さない。その意味で資本の原理はきわめて現実的であり、観念の幻影をうち破る点で革新的ですらあった。

したがって女の工場労働は男の労働力の不足から生じたものではなく、製糸紡績のように女の仕事に限定されてもいない。男の人手が足りているときに女の雇傭が始まっているし、印刷局の例が示すように女に出来る仕事ならどこにでも拡がる可能性がある

た。それもこれも、低廉大量の労働力の需要が高まったためである。

この傾向は工業生産の急上昇する日清戦争後にはつきり現われているが、もとよりそれ以前にも見ることができる。岡山県では紡織と共に早くから印刷業が発達しているが、栄町の西野活版所では明治六年から女工を採用していた。年齢は十一歳から十七歳までで、五年以上の勤務者は男に混って組版までやり、明治二十年ごろの賃金は日給三銭から八銭と伝えられている。東京では西紺野町の秀英舎が十七、八年頃から活版女工を採用し、日給七―八銭を払っていた。また十八年には日本製薬会社が女工を募集し、製薬の調剤と罐詰に当らせている。この種の例は、すでに必要と認めればいつでも女工を募集できたということで、調査すれば実例はいくらでもあると思われる。求める方も雇われる方も、**B** 男工と肩を比べて女が工場で働くことを、キ異と感ぜなくなつたからである。

横山源之助が明治三十年に毎日新聞に連載した「大阪工場めぐり」は十九の工場（授産場を除く）を挙げているが、そのなかで女工の存在に触れていないのはガラス、鞆靴、黒鉛坩堝および鉄工所の四つにすぎない。しかもガラス工場に女工のいたことは『職工事情』の調査報告に明らかで、ただ少数に過ぎぬため、横山は特に触れなかつたのであろう。だとすれば鞆や靴を製造する工場にも女工がいたのではないかと思われるが、それを別にしても十九工場中の十五工場が女工を採用している。そのなかで女の専業視される繊維工業はガス系紡績、友染、毛糸、メリヤス、段通、平野紡績の六つで、さらに九工場が残る。その内訳は、ガラス、紙函（紙器）、団扇、時計、染色、電気分銅、洋傘、玉簾、帽子、ブラシ、製油などの製造工場である。これらは横山源之助が二ヵ月間の大阪滞在中に個人的に訪れた工場にとどまっているが、明治三五年の『工場通覧』のような政府の調査報告によればさらに実情がはつきりする。そこに掲げられた四十の種目別工場から製糸・紡績・織物の三種をのぞいた三七工場の内、女工を使用していないものはガス工場ただ一つである。その他はすべて女工を採用しており、化学工場のごときは男工三五、六七五人にたいし女工四三、二九一人と、**C** 凌駕している。

女は家に閉じこもつて家事と育児に専念し、家長は家族を扶養するために社会に出て働くという男女分権の哲学は、家制度を維持するために絶対に必要だつたから明治はおろか大正時代まで「健全な思想」として受け継がれ、良家の子女は暇をもてあまして

も職業などに就くものではなく、家庭で花嫁修業につとめるのが結婚の理想とされた。明治十六年に岸田俊子の慨いた函入娘は大正時代にも生きて男の好みに迎合していたのである。職業に就くような女は素行上に疑いを持たれてもやむをえなかった。大正も中期を過ぎると女の自覚や社会的進出が婦人雑誌などで叫ばれるようになって、女の職業を直接に非難することは避けるようになったが、しかも偏見は、<sup>e</sup> 隠微なかたちで根づよく伏在し、暗黙のうちに墮落や危険思想と結びつけて中傷する材料の一つであった。バスの女子車掌の働きぶりに感心してうちの息子の嫁にしたいと言った老婆の話がエピソードになったのは大正の末である。これを裏返せば勤めに出るような女は嫁にしたくないのが一般の心理であった。

このように女らしさの教育が **D** して強力に推し進められている一方で、明治の殖産興業は早くから女の閉鎖性を打破し、家庭のそとに連れ出しはじめていた。歴史の進行は矛盾の傷口を生々しく照らし出してみせる。家制度は女の職業を拒否しつづけてきたが、資本は女の職業を公認した。<sup>④</sup> 前者は男と女との職分の相違を説き、女が社会的活動に適しない理由を熱心に立証しようとする。<sup>⑤</sup> 後者は女が男より体力の点では劣ついても職業能力に欠けていない点を列挙してみせる。家制度は男女の接触を戒めるが、資本は男の職場に女を送り込む。そして、資本が必要と認め年々需要を拡大している女子労働に家制度は否定的評価をあたえている。論理的にみればこの二つの傾向はまったく相反した原理から出発しているので、矛盾と対立の関係におかれていゝる。しかし現実には論理ではなく、矛盾や対立を抱えたまま静止するものでもない。日々進行している現実はそのような形をとろうと次の新しい現実を生み出しているという点で自己の道を歩んでいる。資本の要求を抑えなければ女を家に束縛することはできず、女の就職が結果として家制度を弱体化することは明らかだけれども、この場合に起っているのはなによりもまず資本の要求という現実であつて、それを否定できぬ以上、根源的な対立はじつは現実と觀念の相剋なのである。したがって、資本は目的をつらぬくためにいかなるイデオロギーにとらわれる必要もない。思想や論理が必要なのは目的達成に役立つ場合に限られており、それ以外は捨ててかえりみない。たとえば『ひめゆりの塔』の映画化が反戦思想に通じる危険があるとしても、莫大な利潤をもたらせばその映画会社にとっては矛盾とならず、資本の原則に適った行為である。もとより予定される危険は体制に危機を及ぼさないとという限界をもっている。だが、その限界は予想以上にひろく、その範囲内においては資本は柔軟であり、脱イデオロギー的であり、革

新的ですらありうる。働くものの意識も自覚も低く、まだ雇傭者と対抗する組織をほとんど持たなかった時代に、資本はいつか現実化する。⑥ 原理的な対立をおそれる必要がなかったとしても少しもふしぎではない。

(村上信彦『明治女性史』)

※出題の都合上、一部改変有り

問一 傍線①「雲をつかむよう」とあるが、どういうことか。その説明として最も適当なものを、次の1から5の中から選びなさい。

い。解答番号は

17

- 1 はつきりしなくて、とらえどころがないさま。
- 2 はるかに遠くて、及ぶことができないさま。
- 3 目的が、しつかりと決まっていなさいさま。
- 4 にわかに、わき上がって発達していくさま。
- 5 表現が難しく、たいへん理解しづらいさま。

問二 傍線 a から c に使用する漢字として最も適当なものを、次の1から5の中からそれぞれ選びなさい。解答番号は

a は

18

、b は

19

、c は

20

	a	b	c
	無シヨウ	情ソウ	キ異
1	賞	操	気
2	精	想	既
3	彰	繰	気
4	障	創	奇
5	償	爽	基

問三  に入る語句として最も適当なものを、次の1から5の中から選びなさい。解答番号は

- 1 有名無実
- 2 大義名分
- 3 思慮分別
- 4 知足安分
- 5 四分五裂

問四 傍線②「意に介さない」とあるが、どういうことか。その説明として最も適当なものを、次の1から5の中から選びなさい。

解答番号は

- 1 無視できないということ。
- 2 賛成できないということ。
- 3 同意すべきだということ。
- 4 気にかけないということ。
- 5 賛同できないということ。

問五 傍線③「もとより」とあるが、近い意味の副詞として最も適当なものを、次の1から5の中から選びなさい。解答番号

は

- 1 もっと
- 2 あたかも
- 3 もちろん
- 4 さながら
- 5 さぞかし



問六

B

に入る語句として最も適当なものを次の1から5の中から選びなさい。

解答番号は

24

- 1 たとえ
- 2 もはや
- 3 だから
- 4 けだし
- 5 よもや

問七 傍線 d・e の語句の意味として最も適当なものを、次の1から5の中からそれぞれ選びなさい。解答番号は、

d は 25、e は 26

d 凌駕

- 1 比較すると、明らかに異なっていること。
- 2 他のものをしので、その上に出ること。
- 3 比較して、大きな違いがわかること。
- 4 結果的に少しずつ減少傾向にあること。
- 5 一見して明らかでないは見られないこと。

e 隱微

- 1 かすかで表面からはわかりにくいこと。
- 2 完全にわからないようにされていること。
- 3 意図的に見えないよう覆い尽くしていること。
- 4 一部の人々の間でひそかに守られていること。
- 5 非常によくないことと考えられていること。

問八  に入る語句として最も適当なものを次の1から5の中から選びなさい。解答番号は

- 1 さつそく
- 2 いつ
- 3 いか
- 4 いかで
- 5 いつしか

問九  に入る語句として最も適当なものを次の1から5の中から選びなさい。解答番号は

- 1 主客転倒
- 2 右往左往
- 3 離合集散
- 4 悪戦苦闘
- 5 終始一貫

問十 傍線④「前者」とあるが、何を指しているか。その内容として最も適当なものを、次の1から5の中から選びなさい。解答

番号は

- 1 明治の殖産興業
- 2 家庭のそと
- 3 歴史の進行
- 4 矛盾の傷口
- 5 家制度

問十一 傍線⑤「後者」とあるが、何を指しているか。その内容として最も適当なものを、次の1から5の中から選びなさい。解

答番号は

- 1 資本
- 2 職業
- 3 女の閉鎖性
- 4 女らしさの教育
- 5 家制度

問十二 傍線⑥「原理的な対立」とあるが、どういうことか。その説明として最も適当なものを、次の1から5の中から選びなさい。

い。解答番号は

31

- 1 女が男より体力の点で劣ることが、職業能力の有無とは相違するということ。
- 2 女らしさと女の自覚や社会的進出とは、絶対相容れないものだということ。
- 3 女が家庭で花嫁修業につとめることが、理想的な生き方と相反するということ。
- 4 利潤を追求することが、女子の就業を否定する家制度と対決するということ。
- 5 女が勤めに出て勤勉に働くことが、一般的に男の都合と対立するということ。

問十三 本文の内容と合致するものを、次の1から5の中から選びなさい。解答番号は

32

- 1 女子労働が求められたのは、大量の安い労働力が必要だったためである。
- 2 女が家に閉じこもって家事と育児に専念しているのは、素行上問題である。
- 3 明治の社会は、その出発点から女が職業に就くことを奨励していた。
- 4 大勢の女工が採用されるようになったのは、男の労働力不足からだった。
- 5 女子労働者は賃金が安いいため、家庭で花嫁修業につとめる方がよかった。

③ 次の文章を読んで、あとの問に答えなさい。

記者になって最初に言われたことは、事故や事件の現場の様子を記事にする際、決まり文句を使わず、具体的に表現することだった。ことあるたびに「説明せず、描写しろ」と説く先輩記者もいた。

新人のころは、とりあえず事件や事故の現場に駆けつけても、興奮しているから何かから取材すればいいのか、どこから手をつけたいのか、うろろうしてしまふ。いや、ベテランでも、現場に行けば、普通の神経の持ち主ならば多少なりともエクサイトする。事件や事故の現場では、行ってすぐには何がどうなっているのかわからないから、ある程度はやむを得ない。

「これも聞かなければ、あれも取材しなければ」と気が **A** から、「見たままに表現せよ」と言われても、川端康成の短編小説のように、音や色彩など、**B** 感をフルに使った描写なんかとてもできない。だから、<sup>あ</sup>たいてい「惨状」といったような表現になってしまう。これでは、単なる説明で、描写したことにはならない。

同じ惨状でも、悲惨さは状況によっていろいろ違う。紋切り型の表現が批判されるのは、それぞれ違う状況をひとくくりにしてしまうからだ。いつまり、観察力の欠如ばかりでなく、精神の怠慢が指摘されているのである。

決まり文句の誘惑は、われわれの周辺にいくらでもある。古くは「霧のロンドン」に「花のパリ」。近年は、ロンドン、パリに地球も加わって、何かと言えば「地球に優しい○○○」。単なる村おこし、イベントに過ぎなくても必ず「文化を発信」し、インターネットのサイトばかりでなく会社や組織も「<sup>②</sup>立ち上げる」。

まだまだある。黒い目や、茶色い目の外国人だつていくらでも、<sup>う</sup>いるのに、外国人を形容する言葉はほとんどが「青い目」だ。実際は、アメリカ人など、<sup>え</sup>むしろ青い目の人を探さうが難しいくらいなのに。

記事でも、ちよつと前までは、警察の留置場で朝を迎えた殺人犯は「ペろりと朝食をたいらげた」ことが多かった。それ以外にも、景気がいい話だと「**C** 悲鳴」が上がり、市民団体の抗議集会か何かだと「こぶしを震わせて怒りを露わにしていた」ことになる。殺人事件や火事現場の周辺住民は、今でも必ず「不安そうに」現場を見つめていることになっている。**D**、

近所で殺人事件や火事が発生すれば、だれでも不安になるのは間違いない。

**E**、実際のところ、火事の現場では、自分の家に燃え移らないとわかれば、**F** 皆が「不安そうに」見ているわけではない。近所の人や知り合いと、笑いながら見ている野次馬だつて少なくない。なかには、あきあきするような日常生活を打ち破る「ドラマ」とばかり、面白がっている人だつてずいぶんいる。そのくらい、われわれの生活には「物語」が欠けているのだ。火をつけたのは、薄っぺらな日々の暮らしに退屈している、火事騒ぎの好きな消防団員だつた——というケースだつていくらでもある。それが、現実というものである。

「決まり文句」紋切り型の表現は、フランス語でクリシエといわれる。英語にも取り入れられていて、辞書にも「牛のように強い」といったような例文が出ている。決まり文句というのは、一種の「安心用語」なのだと思う。表向きは、決して人を裏切らない。人間の予定調和的な発想にぴったり合う。だから安心していられる。殺人事件や火事の現場で皆が「不安そうに見ていた」と書いてあれば、だれも文句は言わない。しかし、それに寄りかかっている限り、そこから一步も進まない。言葉によって、思考そのものを停滞させてしまう。

一九七〇年代、女性グループが男社会に抗議して集会を開けば、新聞記事は決まって「**③** 黄色い声を張り上げた」と表現した。「黄色い声」というのは、単に紋切り型の表現ではなく、明らかに女性たちの異議申し立てに対するからかいの表現だつた。今でもマスコミは男社会であるが、当時はもっと男社会の発想に満ちあふれていた。

そのころ、母親が幼い子どもを殺す事件が頻発した。昼間は狭いアパートで、子どもと二人つきり。近所には話し相手はおらず、夫は仕事で夜が遅い。そうしたなかで、夫との関係がまずくなったり、育児ノイローゼになったりしてその揚げ句というケースが多かつた。その当時、こうした事件を起こした母親に対する言葉のほとんどが「鬼のような母親」だつた。ここには「夫はどうしていたのか」「夫は妻の不満や訴えに耳を傾けていたのか」「夫は父親としての役割を果たしていたのか」といった発想は全くなく、「すべては母親の責任」という男の発想で貫かれていたように思う。

さすがに今日では、事件や事故の記事に紋切り型の表現はほとんど見られなくなってきた。だが、意外なことに運動面などには、

あらたな決まり文句が登場している。それも、なぜかゴルフの記事に多い。いわく「初日、出遅れた××選手は……」。「出遅れた」というから、滞在先のホテルの目覚まし時計が狂っていて、スタート時間に十五分ほど遅れてきたのかと思うと、そんなことはない。要するに初日、<sup>注</sup>ボギーがいくつあったりして、スコアと順位が悪かったというだけのこと。「我慢のゴルフ」も、しょっちゅう出てくる表現だ。それにしても、ゴルフの選手はどうしてこうも「我慢」好きなのか。どうして「我慢」を<sup>イ</sup>強いられるのだろうか。もともと、「我慢」ができないと、スコアは乱れるようだが。

そして「結果を出せれば」や「結果を残せれば」。これは、ゴルフの選手ばかりでなく多くのスポーツ選手が使っている。「結果」は「よい結果」もあれば「悪い結果」もあるが、むろん、ここでは「よい結果」に決まっている。

「**a**」は、なんとなく成り行きまかせの感じ。それに対して「**b**」という表現には意気込みが感じられる。本当は、「よい結果を出せれば」と言うのが正確だろうが、それではちょっと<sup>④</sup>冗漫だ。「よい」を<sup>ウ</sup>省いて、「結果を出せれば」のほうが言葉としては引き締まる。このほうがスポーツの世界にふさわしいのかもしれない。

確かに、決まり文句や紋切り型の表現は便利だ。自分の気持ちや思いなどに対して、ぴったりくる言葉をいちいち<sup>エ</sup>紡ぎ出さなくてすむ。

イメージ通りの、色具合のいい織物がすでにでき上がっている。考えずに、それを取り込めばいい。いわば思考の簡略化。それに都合がいいことに、はつきりした「賞味期限」もなければ、「消費期限」もない。それだけに、言葉としてすり切れていないか、いたんでいないか、それを感じ取るセンスが本当は必要なのだと思う——というのも、実は紋切り型の発想か。

(驚見徹也『大切なことば、いらぬ日本語』)

注 ボギー…：ゴルフでそのホールの基準打数よりも一打多い打数をいう。

問一 A にあてはまる最も適当な語を、次の1から5の中から選びなさい。解答番号は 33

- 1 すむ
- 2 せく
- 3 おれる
- 4 しずむ
- 5 おもい

問二 傍線①「川端康成」の作品の組み合わせを、次の1から5の中から選びなさい。解答番号は 34

- 1 夕鶴・雪国・斜陽
- 2 千羽鶴・古都・明暗
- 3 雪国・山の音・金閣寺
- 4 千羽鶴・山の音・古都
- 5 伊豆の踊子・浅草紅団・舞姫

問三

B

にあてはまる最も適当な語を、次の1から5の中から選びなさい。解答番号は

35

- 1 五
- 2 六
- 3 万
- 4 直
- 5 霊

問四

傍線②「立ち上げる」と同じ活用をする動詞の組み合わせとして最も適当なものを、次の1から5の中から選びなさい。

解答番号は

36

- 1 書く・行く・読む
- 2 話す・打つ・学ぶ
- 3 着る・似る・過ぎる
- 4 寄せる・慣れる・寝る
- 5 する・熱する・接する



問五  にあてはまる最も適当な語を、次の1から5の中から選びなさい。解答番号は

- 1 たのしい
- 2 うれしい
- 3 かなしい
- 4 はずかしい
- 5 ありがたい

問六 、、 にあてはまる語の組み合わせとして最も適当なものを、次の1から5の中から選びなさい。解答番号は

- |   |   |     |   |      |   |      |
|---|---|-----|---|------|---|------|
| 1 | D | また  | E | それから | F | 必ずしも |
| 2 | D | 確かに | E | しかし  | F | 必ずしも |
| 3 | D | 確かに | E | いきなり | F | 多分   |
| 4 | D | よもや | E | それから | F | 多分   |
| 5 | D | よもや | E | しかし  | F | きつと  |

問七 傍線③「黄色い声を張り上げた」とあるが、「黄色い声」とはどのような声か。最も適當なものを次の1から5の中から選  
びなさい。 解答番号は

- 1 抑揚のある演出効果抜群の声
- 2 明るく聞き取りやすい声
- 3 性別不明で中性的な声
- 4 危機感を喚起させる声
- 5 感情的で平静さを失った声

問八 、にあてはまる最も適當な文の組み合わせを、次の1から5の中から選びなさい。解答番号  
は

- |   |   |          |   |          |
|---|---|----------|---|----------|
| 1 | a | 結果を出せれば  | b | 結果が出れば   |
| 2 | a | 結果を出させれば | b | 結果を出せれば  |
| 3 | a | 結果が出れば   | b | 結果を出せれば  |
| 4 | a | 結果が出れば   | b | 結果を出させれば |
| 5 | a | 結果が出させれば | b | 結果が出れば   |

問九 傍線④「冗漫」の意味として最も適当なものを、次の1から5の中から選びなさい。解答番号は 41

- 1 十分、満たしている。
- 2 簡潔で、無駄が無い。
- 3 くどくて、無駄が多い。
- 4 無駄が無く、おもしろい。
- 5 無駄が多いが、おもしろい。

問十 傍線ア「頻発」、イ「強」、ウ「省」、エ「紡」の読みの組み合わせとして最も適当なものを、次の1から5の中から選びなさい。解答番号は 42

- |   |   |      |    |   |    |   |    |
|---|---|------|----|---|----|---|----|
| 1 | ア | ふんぱつ | イツ | ウ | のぞ | エ | ふせ |
| 2 | ア | ふんはつ | イシ | ウ | はぶ | エ | ふせ |
| 3 | ア | びんぱつ | イツ | ウ | はぶ | エ | つむ |
| 4 | ア | ひんぱつ | イシ | ウ | はぶ | エ | つむ |
| 5 | ア | ひんぱつ | イシ | ウ | のぞ | エ | ふせ |

問十一 傍線あ「たいてい」、「い」、「つまり」、「う」、「いる」、「え」、「むしろ」、「お」、「ない」の品詞の組み合わせとして最も適当なものを、

次の1から5の中から選びなさい。解答番号は

43

- 1 あ・い・うお・え
- 2 あ・いえ・うお
- 3 あい・うお・え
- 4 あえ・い・う・お
- 5 あいえ・う・お

問十二 文中で述べられている内容として最も適当なものを、次の1から5の中から選びなさい。解答番号は

44

- 1 新聞記者は記事を書くとき、それを表現するのに最もふさわしい言葉を熟慮して使うべきである。
- 2 新聞記者は日本語の誤用や乱れを促進させないために、正しい日本語の表記法を学ばなければならない。
- 3 新聞記者には目を引くような見出しをつけたり、造語を用いるなどして書く工夫をする人がふさわしい。
- 4 新聞記者は小説家のように独特の文体を確立するなど、表現能力を日々鍛練すべきである。
- 5 新聞記者は万人に理解できるような慣用句やことわざを用いて、記事を執筆することが重要である。

問十三 筆者は「決まり文句」や「紋切り型の表現」をどのように考えているか。最も適当なものを次の1から5の中から選びな

さい。解答番号は 

45
----

- 1 決まり文句や紋切り型の表現を使用すると、迅速かつ容易に事柄を伝達できるが、その短絡的な使用によって日本語の運用に誤解が生じ意志疎通が難しくなる。
- 2 決まり文句や紋切り型の表現を多用すると、様々に異なる事象の概要は伝達できるが、表現の類型化を招き分析や考察の領域に到達することができなくなる。
- 3 決まり文句や紋切り型の表現を使用しなくなると、社会通念を大きく逸脱する出来事や、時々刻々と変化する社会情勢の伝達に対応できなくなる。
- 4 決まり文句や紋切り型の表現を頻繁に使用すると、日本語は新鮮味を失い新語の生成も滞り、日本の文化や文明が衰退する恐れがある。
- 5 決まり文句や紋切り型の表現を乱用すると、個性や独創的な発想もなくなって、類似表現が頻出し、盗用と見なされる心配がある。

(以下余白)